

生コンの製造 学生興味津々 鯖江、企業が見学会



福井宇部生コンクリートの南越工場で、製造現場を見学する福井工大の学生＝21日、鯖江市有定町

福井宇部生コンクリート（本社福井市上森田5丁目、南谷哲彦社長）は21日、福井工大の学生を招いた生コン製造現場の見学会を、鯖江市の南越工場で開いた。

北陸新幹線延伸に伴う県内工事の本格化を控え、コンクリートの社会的役割や品質管理などの製造技術に理解を深

めてもらおうと、初めて開いた。同大工学部建築生活環境学科（現建築土木工学科）の25人が参加した。

生コンはセメントや水、砂利といった材料の配合設計を適切に行う技術が求められる。学生たちは吉川昌和工場長らの案内で、遠隔操作によって材料が運ばれる高さ約20

メートルのプラント内部を見学。粘りや空気量を確認する試験練りの実演もあり、興味深そうに見入っていた。

吉川工場長は「気象状況などの変動要因がある。適切な補正を行って厳格な規格に対応する製造技術が求められる」などと説明。同大4年の早矢仕和希さんは「座学では分からない生の材料や現場を見るのができて勉強になった」と話していた。

同社はグループを合わせて県内に4工場を持つ。来春には北陸トンネル工事などで納入を予定する。（山口晶永）